



11/15(土)



村民フットサル大会

占冠中学校体育館で「村民フットサル大会」が開催されました。今年は6チーム40人が参加し、会場は大いににぎわいました。大人も子どもも夢中になってボールを追いかける姿が見られ、好プレーや鮮やかな得点が生まれるたびに、会場からは大きな拍手や歓声が送られていました。スポーツを通じて村の一体感が高まる素晴らしい大会でした。

11/22(土)



村民フロアカーリング大会

占冠村コミュニティプラザで「村民フロアカーリング大会」が開催され、参加した8チーム42人が熱い戦いを繰り広げました。フロアカーリングに初挑戦という参加者も多く見られましたが、経験者にアドバイスをもらいながら夢中になって楽しんでいました。終始和やかな雰囲気の中で競技が進み、世代や経験を超えた交流を深める素晴らしい機会となりました。

10/9(木)~10/10(金)



村道・公園の環境整備

株式会社川端組(馬瀬戸祐則代表取締役)が地域貢献事業として、中央地区の村道および農村公園の環境整備を実施しました。長く伸びていた雑草の除草作業と樹木の丁寧な枝払いが行われ、見通しが悪くなっていた通路などがきれいに整備されました。この作業により景観の美化はもちろん、安全性の向上が図られました。誠にありがとうございました。

11/19(水)



占冠神楽の体験授業

占冠中央小学校の3・4年生を対象に村の伝統芸能「占冠神楽」の体験授業が行われました。子どもたちは占冠神楽保存会の皆さんから指導を受け、演目「大蛇」の舞(振り付け)や楽(楽器演奏)を体験しました。「大蛇の衣装が重かった」「太鼓が楽しかった」などの感想が聞かれ、楽しみながら伝統芸能に触れる様子が見られました。



食品ロスを削減しよう

食品ロスとは、例えば食べ残しや大量に買ったけど食べ切れずに捨ててしまうといった、本来なら食べられるのに廃棄されてしまった食品のことです。

このような、食べ物の「もったいない」をなくすために、私たちにできることを考え、実践しませんか？

どうして食品ロスの削減が必要なの？

食品ロスとして出される生ごみは、「もったいない」だけの問題ではありません。大きな物事として考えると、食材の生産の際に使用した水、加工するために使用した電気、配送するために消費した燃料など、さまざまな過程で使用したエネルギーなども無駄となってしまいます。

農林水産省の調査では、日本における食品ロスは年間約464万トン(令和5年度農林水産省推計)となっており、これは世界全体の食糧支援量である約370万トンを上回る量となっています。

資源の有効活用はもとより環境負荷への配慮から、食品ロスを削減することが大変重要です。



家庭で発生している食品ロス

家庭で発生している食品ロスは、直接廃棄(手付かず食品)、過剰除去(皮の剥き過ぎ)、食べ残しなどです。特に、野菜類(果実含む)の食品ロスが多く、これらを減らすことで効率的に家計のロスも減らせます。

直接廃棄

賞味期限切れ等により料理の食材として使用、またはそのまま食べられる食品として使用・提供されずに廃棄されたもの。

過剰除去

野菜の皮を厚く剥き過ぎるなど、食べられる部分まで捨ててしまうこと。

食べ残し

作り過ぎなどで食べ切れずに捨ててしまうこと。

家庭でできる簡単な食品ロス削減3選

1 冷蔵庫の中身をチェック！

日頃から定期的に冷蔵庫を片付けると食材の使い忘れを防ぐことができます。

また、買い物前にスマホで冷蔵庫の中の写真を撮っておくことで「二重買い」を防止できます。



2 レシピを活用！

消費者庁がクックパッドで、余った食材を使って作る料理や食べ残しのリメイクなど、さまざまなレシピを紹介しています。

消費者庁のキッチン⇒



3 冷凍保存を活用！

野菜は固ゆでしたり、電子レンジで温めたり、火を通してから冷凍すれば品質劣化が抑えられます。

